

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成 28 年 9 月 5 日（月）

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【会場】起雲閣 音楽サロン

1 出席者

- ・ 発言者 熱海市・伊東市において様々な分野で活躍されている方
6 名（男性 3 名、女性 3 名）
- ・ 傍聴者 150 人

2 発言意見

番号	分野・所属	項 目	頁
発言者 1	旅行会社	ユニバーサルツーリズム促進に向けて	2
2	ボランティア	ボランティアを通じた助け合いのまちづくり	5
3	鮮魚組合	地魚を生かしたまちづくり	9
4	観光	インバウンドの活性化に向けたおもてなし	10
5	民間まちづくり	リノベーションまちづくり	18
6	子育て	子育てがしやすいまちを目指して	22
傍聴者 1	—	文化芸術を活かした観光	28
傍聴者 2	—	すばらしい景観を守って	29

【川勝知事】

皆様、こんにちは。今日はお暑い中、知事広聴「平太と語ろう」に御参集いただきまして誠にありがとうございます。これ四十数回やっておりますけれども、こうした平日にもかかわらず、本当にたくさんの方々、恐らく熱海を中心に伊東からもお越しいただきまして、大変恐縮しております。

これ広聴というんですから、広く聴くということで、私どもしっかり伊東並びにこの熱海の代表の方々、恐らく3人ずつだと存じますけれども、お話を承りまして、聞いて聞きっ放しにはいたしません。

今日は、意思決定者が来ておりまして、今日発言者1さん以下、皆様方からお聞きして、場合によっては皆様方からお聞きして、それに対して必ずお答えを出します。ただ、こうしますということが言えないものもありますね。それは持ち帰って、そして質問いただいた方、御提言いただいた方に対して御返事申し上げて、ここでのやりとりは実のあるものにするということで、これまでまいりました。

そういうことでございますので、限られた時間ではございますけれども、これが熱海の市政、また伊東の市政に役に立つようにと思っておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

【発言者1】

皆さん、こんにちは。伊東市で障害者とか高齢者のバリアフリー向けの旅行会社代表の発言者1といいます。今日は、私は言語障害があるんですけど、大体こんなことを話しているんだなと思ってもらえればと思います。

よくバリアフリーという話が出るんですけど、具体的には大ざっぱにバリアフリーというと、施設の整備をしたり、スロープをつけたりという物理的なバリアフリーというのがあります。だけどそうすると、お金とか時間とかがすごくかかると思います。だからもう1つの方の心のバリアフリーというんですけど、気持ちの中で心の壁を取り払っていこうというような方法があります。そうするとお金も時間もかからないですし、極端な話、ここから出た瞬間からできることがあると思います。

私たちは主に心のバリアフリーということを進めているんですけども、主な活動としては、障害者とか健常者とか年齢とか、そういうのを関係なく、楽しめるようなユニバーサルツーリズムができないかなということで、ツアーを企画したりしています。そのときによく気にしているのは、障害があつたり、車椅子に乗っていたりする人、段差があつて

階段があったりすると、なかなか難しいので、運んでもらえればそれでいいんですけど、当事者からすると運んでもらうこと自体がちょっと気になってという感じで、下で待っているよとか、そういうふうな気持ちになっちゃう場合もあると思います。

杖の方なんかは、歩くスピードがすごく遅いです。ざっくり言うと、普通の人が歩く速さの半分以下ぐらいのスピードになっちゃうと思うので、私たちがやっているツアーというのは、障害を持つ方が、自分が障害者だということを意識しないように、階段があるところとか、スピードもゆっくり歩くとか、そういうツアーをやっています。

あともう1つ、心のバリアフリーを広めるために、やっぱり子供のうちからの方がいいと思っています。小学校とか中学校でお話をしたり、あと大人、社会に出た方々にも同じようにシンポジウムとか、講演会とかをしながら、そういう気持ちが必要ということをお話しています。

それで静岡県というのは、知っている方がいるかもしれないですけど、「富国有徳」というのをキャッチフレーズとかスローガンのような形でやっています。直接私どもは関係ないんですけど、活動としては「有徳」の場面にかなり近いのかなと思っています。

私たちが元々目指していたのは、相手のことを思いやって考える、そこまでは体験できるんですけど、そこから行動できるようにした方がいいということを言っています。行動できる人を「有徳の人」というふうに位置づけています。

ごみ拾いが何で必要なのでしょうかというのは、ごみを捨てる人がいるからごみ拾いが必要になるということです。それと同じように、身障者用の駐車場によく車をとめている健常者の方がいると思うんですけど、それというのも同じで、駐車場のスペースというのが、障害者にとって必要かどうかというところをちゃんと判断できないからではないかと思っています。

そうやってごみを捨てたりとか、障害者用の駐車場に止めたりしないような人を、思いやりを持った人を育てていくのも必要なのかなと、ツアーとかそういう講演会とかを通して、そういう思いやりを持った人材を増やしていけたらなと思って活動しています。

あとは、最近よく思うんですけども、どこにも人というのはたくさんいると思います。だけど、これからは人という資源をどんどん生かして行って、ほかと差別化していくことで、有徳の人も増やしていけると思いますし、特徴ある地域にならないかなと思って、小さいころ、子供の人たちにもそういう気持ちになってもらえたらなと思って、講演とかしています。

で、時間があるときに、テレビとか見ているんですけど、ディズニーランドがずっと何年か顧客満足度1位だったんですけど、今年11位になったらしいんです。そうすると幾つか理由はあると思うんですけど、私の思う1つの理由としては、ディズニーランドには何回も行ったことがある人がいると思うんですけど、そうすると中で働いている従業員の人たちの対応というのは、飛び抜けていたと思うんです。だけど、最近のほかのテーマパークというのは、やっぱりこのままじゃいけないなということで、どんどん取り入れていって、そこがやっぱり普通になってきたので、特にディズニーランドの顧客対応の満足度が高いというわけじゃなくなったんじゃないのかなと思っています。

それで、「有徳の人」というのを増やすためには、普段どういうふうな活動をしているのかということなんですけど、小中学生には総合学習というのがあります。小学校の場合4年生で、中学校の場合3年生です。その総合学習の中で地域というのを担当している学校は複数に行く機会があるんですが、中学校の方でもつくってまして、自分の親とかが介護が必要になったときとかに、初めて福祉というのに直面するので、まず小中学生くらいは選択肢のうちで福祉というのを学べるようになってもらえたらなと思っています。

小中学生には講演という形で話をしているんですけど、そのときにいつも言っていることが1つだけあって、何か困ってそうな人がいたら、インバウンドとか最近言われていますけど、外国の方とかも同じだと思いますけど、そのときに「何かお手伝いしましょうか」というような声かけをしてもらえると、相手の方もいろいろ頼みやすいのかなと、そういうことを言っています。

中学生くらいになると、いろいろ体力的なこともあるので、まち歩きなんかをやっています。そうすると車椅子を押す経験とかというのは、自分のまちでまず押してみると、歩道は意外とでこぼこしているとか、信号が短いとか、そういうのを体験できたり、改めて自分のまちを調べ直したりとか、歴史の勉強にもなるのかなと思ってやっております。

あとは伊東市の社会福祉協議会さんの方で主催しているんですけど、まちづくりプロジェクトというのがあります。その中には今年夏休みにバリアフリーの調査とか、インタビューとか、ジオパークとかの調査をしてもらっています。

そういうふうに福祉に関わっている中学生とか、高校生が私たちのツアーのお手伝いをしてくれたりしています。

それと去年なんですけど、伊東創造大賞というのが、去年で4回目になるんですけどやっています。そこで福祉・介護のプロフェッショナルを育てるまちということで、福祉職

のインターンシップ事業を伊東市でできないかなという提案をしていて、そこで最優秀賞をいただきました。

大学生向けのインターンシップは、京都府の方でやっているんですけど、やっぱり小中高生にもそれなりに福祉に興味を持ってもらえればなというか、大学生くらいになっちゃうと、ある程度のノルマを立てていると思いますし、最終的には就職する気があるかという専門的なものを目指していると思うんですけど、小中高生はまず興味を持ってもらうことが必要かなと思っていて、体験みたいな感じで小中高生に向けてインターンシップを受け入れてもらえるようなことをやっています。

総合学習で中学生もまち歩きというのをやってみました。その子たちの様子とか、実際にどういう活動をしていくかというのがインターネットからでも見られます。

そうするとやっぱり静岡県ではいろいろユニバーサルツーリズムに取り組んでいる団体とかも多いんですけど、そういう人たちの横の連携みたいな、つながりというものがないので、勉強会のレベルでいいですけど、勉強会とか、実際に情報交換とかをする静岡県ユニバーサルツーリズム市民連絡会というのを結成しています。これから必要になるのかなと思っています。以上です。

【発言者2】

皆さん、こんにちは。伊東市から参りました発言者2と申します。

ボランティアのことにつきましてお話しさせていただきます。題材は「私のボランティアについて」です。私は結婚後、専業主婦として生活しておりましたが、子育てが一段落したとき、世間との関わりの希薄さを感じ、このままで私はいいのだろうかと不安を覚えたときに、平成5年、伊東市主催の日本赤十字社の家庭介護講習を受ける機会を得ました。

その講習を受けた方々が、何かこの講習会で得た知識を活用することはできないだろうかとの声かけがあり、その趣旨に賛同した仲間5人でいろいろと話し合いを行い、1時間700円の有料ボランティアとして在宅福祉サービスを立ち上げ、活動を開始しました。

活動内容は入浴、通院等の介助や、買い物等家事など週1、2回、1時間から2時間の範囲で、また他県から伊東市に旅行に見えた方の入浴や車椅子での名所案内の介助は無料にて5、6年行いました。無理をしない、家庭を犠牲にしない、月1回の集まりを行い、仲間同士の情報共有を行いました。

平成12年、介護保険制度ができたので、利用者様には介護保険の利用を勧め、不足するものについては支援を行いましたが、中には介護保険を利用せず、ボランティアグループ

ほほえみを転居するまで利用された方もおられます。それぞれの仲間と利用者様の信頼関係の構築はすばらしいものがあり、仲間や事業者様から幾つもの知恵、知識、感動など、多くのことを得ることができました。これらは家には味わうことのできないことでした。その仲間は私にとってかけがえのない仲間となりました。

ほほえみを活動しながら、私は勉強を兼ねて社会福祉協議会の登録ヘルパーとして週2、3回訪問をしました。登録ヘルパーをしているうちに介護福祉士、介護支援専門員、ケアマネージャーの資格を得ることができ、子供たちも巣立ちましたので、平成13年から介護支援専門員として働き始めました。仲間たちもそれぞれに福祉関係の仕事に就きました。

その後のほほえみの活動は、施設や行政等の行事支援や依頼のあった件は継続的な支援ができないので、そのときだけのものの支援になり、それも仲間と相談しながら現在も行っております。

平成26年3月、私は退職、新たなボランティア、子供の一時預かり、ファミリーサポーターと、伊東図書館お話し会に参加し、毎週土曜日、当番制にて子供たちに絵本の読み聞かせを行っています。読み聞かせも読めばよいのではなく、読み方や本の選び方など、勉強しなければならないことがたくさんあります。自分が子育てをしていたときは無我夢中でゆとりがありませんでしたが、子供たちの成長のすばらしさに新たな感動を実感しています。

最近、介護保険制度の見直しで地域での支援の構築が必要とされています。以前は隣近所でお互い様との環境がありましたが、昨今は薄れ、再びお互い様、助け合いのできる環境が地域で必要とされています。

皆様、ボランティアはちょっと自分にはできないと思われている方も多いと思いますが、自分ができること、例えばごみを出しに行くときに、近所の高齢者のごみを一緒に持って行ってあげるとか、買い物に行くときに一声かけて買い物に行ってあげるなど、また、見守り、それもボランティアです、助け合いです。地域でこのような環境ができれば、遠方にいる子供たちも安心できるでしょうし、御自身も住み慣れた地域でいつまでも安心して生活を送ることができるので、そのような地域を皆さんでつくることができたらすばらしいことではないでしょうか。

最後になりましたが、伊東市ボランティア協会では6月より月1回、マリントウンにて熊本地震支援募金の街頭募金を行っています。多くの来客様の皆様が募金に協力をしていただいております。うれしい限りです。

これからも私はお互い様を念頭に置き、無理せず自分のできること、少し努力したらで
きることを行っていきたいと思っています。そのためには健康でなければなりませんので、
少し運動習慣を生活の中に取り入れたいと考えています。

これをもちまして私のボランティアについての主張を終わります。御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】

今、発言者1さんと発言者2さんから介護福祉、ボランティアに関わるお話をお聞きし
たんですけども、お二人とも誠に立派な人だなというのが率直な感想です。

発言者1さんの場合は、ちょうど10年前に健常者からこのように言語障害というものが
自分の生き様になってきたと。そこをどうするかというときに、旅行社を立ち上げになっ
たと。

5年前ですか、これを立ち上げになったのは。平成23年ですね。ですからそれまでの5
年間大変だったと思いますが、自分と同じような障害を持つ人がいるに違いないと。実際
います。そして人は年をとると、だんだんと体にいろいろな変調を来して、言ってみれ
ば障害者と同じような状態になるわけですね。

私初めてヒゲの殿下、癌になられまして、喉頭癌で声帯障害になられて、機械を使って
しか相手と言えない。そのときに全くおけれん味なく、世の中に本当にすべて健常である
人は一人もいませんよと。完全に障害者という人もいませんと。すべて、人生のうちで健
常であるところが多いところと、障害が多いところに入れ替わり立ち替わりするというの
が人生ですということで、両方のことを考えないといけないということを皆さんの前で言
われまして、感心したのを覚えていますけれども、そのことを知らしめるために、小学校
や中学校でまち歩きツアーというのをなさって、そして一番大切なのが、バリアフリーと
いう何か階段をなくてスロープにするとかということではなくて、やはり一番大切なのは
心のバリアを取り除くことだという当たり前のことに気づかされて、それをまずは子供か
らと。

しかし体力が出てくると、中学生には一緒にまちを歩いて、そしてどういうところに不
便があるかということを実際お互いに一緒に知るといふそういう試みをなさって、第4回
目の介護福祉のプロフェッショナルを育て活躍するまちづくりで最優秀賞を取られたとい
うことで、いかに伊東市民を代表して、7万8万の方たちがその活動が大切だということ
を顕彰されたんだと思っております。

さらにまた伊東、あるいは熱海というのは、ツーリズムのまさにメッカでございますから、ユニバーサルツーリズムというところにこれを広げられた。ですから健常者も障害者も同じように楽しめるようにするにはどうしたらいいかというところまで突き進められた。ですからめげないで自分でできることを、自分の視点に立って伝えていくと。

どちらかというところ少数者ですからね、それを伝えていくという仕事をされているということで、これから今まで 1,000 万人ぐらい日本にお越しになっているわけですが、今年は優にそれを越すであろうと。数年後には 3,000 万、4,000 万の人たちが日本にお越しになると、いろんな人が動くようになるし、私は今 68 歳ですけど 2025 年となりますと、もう皆 70 代の後半になってまいりますので、必ずユニバーサルツーリズムというのがないとおかしいという時代が必ずやってくるので、その先駆けをやられるのではないかというふうに思うわけですね。

ですから学ぶことがたくさんございました。その推進協議会というところでこうした御意見を伊東で始まったものが熱海、さらに伊豆半島、さらに東部、全体に広がるようにしていこうではありませんか。そう思いました。

それから発言者 2 さんのお話、これは専業主婦でいらして、そして子育てを終えて、さあどうしようかというところで、体力があるときには入浴であるとか介護に関わる仕事をボランティアとして、しかし僕は賢かったのは、きちっと 1 日 1 時間とか 2 時間とか、それに対して対価を求めるといふか、自分が完全に犠牲になっては無理することになりますから、無理はしないと。家庭に迷惑はかけないと。空いた時間を使う、そうした実に合理的な判断で、そうすると当然仲間が増えますから、そしてほほえみのネットワークを広げられたということで、すごい自然体だというのがいいと思いました。

そして平成 5 年から、今平成 28 年ですから、もう 20 年近くたって、少し体力の衰えを考えて、入浴のお世話だとか、実際肉体の力を使うということから、今度は人生の知恵を子供たちに返すために読み聞かせだとか移動図書室とかそういうことに変わったということで、子供のために何かできることをと。

そのときにどういう本を選ぶかということもやっぱり考えねばならないと。読み方も考えなくちゃならないということですから、こうしたことは本当に大人なら志さえあれば誰でもできることだということで、ボランティアは特別なことではありませんよと。お互い様ではありませんかというその言葉がいいですね。

ですからとにかくそういうふう感じたということで、こうした発言者 2 さん流のボラ

ンティアの方法だとか、それから発言者1さんの障害者の視点に立った小学生、中学生への啓蒙活動、それからツーリズムにこれを生かしていくという、積極的に立派な人を育てるというそういう立派な人たちがいる、立派な人というのは、それが当たり前になっているような、そこが本当に思いやりのある、徳のあるところだというふうに言われるのだと思うんですけども、そうした具体的な御提案があるので、これを広めていくというのが我々の仕事かなというのが差し当たっての感想でございます。

しかし具体的に幾つかこういうものもいいよという御提案もあるかと存じますので、そうしたことは言っていただきまして、これを広めていくと、あるいはそれを実施していくというふうにすればいいことで、それぞれ深く感じ入った次第でございます。ありがとうございました。

【発言者3】

ただいま御紹介にあずかりました熱海鮮魚組合の発言者3です。どうぞよろしくお願ひします。

熱海は8年前まで青果市場がありました。今の熱海ガスのすぐ上の方に、敷地面積からいくと熱海魚市場の2倍ぐらいでかい大変立派な青果市場がありました。8年前の青果市場の組合員数は34軒だったそうです。青果市場がなくなった8年後の今は、熱海の八百屋さんは何軒になったかというとなら14軒しかありません。この8年の間に20軒の八百屋さんがやめています。

魚市場の方はどうかというと、今現在熱海魚市場の組合員数は30軒あります。熱海魚市場の一番魚屋さんが多かったときが平成2年、今から26年前で58軒ありました。ほぼここ二十数年で半分もの魚屋さんがやめています。

これは熱海に限られたことだけでなく、隣の市の三島市、沼津市、そして神奈川県の小田原市、秦野市などの人に聞いても、魚屋さん、二十数年前に比べて半分しかないよと。何でと聞くと答えは1つしかなかったんですよ。大型量販店の進出によって、軒並み小さい魚屋さんがなくなっていくというのが、熱海に限らず、この地区の現状なのかなと思っています。

それと株式会社熱海魚市場、すごい記録を持ってまして、余り喜ばしいことではないんですけども、売上高が前年対比、14年間ずっと右肩下がりで、ずっと14年間売り上げが減っていると。これはもう何とかしなきゃいけないと。

我々魚屋の仲間も1軒1軒潰れていったり、夜逃げしているのを、僕たちも何回も見

います。それを何とかしようということで、熱海における熱海の地魚をもっとPRしたいということで、「熱海地魚マップ」というこういうものをつくりました。

これなんですけれども、熱海の地元のお客さん、観光客の皆様、熱海に来たら、熱海のどこの魚屋さんに行けばおいしい地魚が食べられるか、売っているかなとか、熱海のどういところのお寿司屋さんに行けば地魚を食べられるお寿司屋さんがあるのかなというのを掲載している僕ら独自でつくった「地魚マップ」でございます。これを主要観光箇所に3年ぐらい置かせていただいたところ、熱海における地魚の値段が少しずつ上がっていったのかと思っていました。

それと、3年前熱海チャレンジ応援センター、A-bizさんに声をかけていただいて、熱海の地の魚で何かやろうよ、何かイベントというよりか、魚から何かやろうよということで、3年前の5月に活気、元気をつける意味で魚祭りを開催することにしました。

これ年間5回やっているんですけれども、実を言うと今度の日曜日が偶然魚祭りの開催日になりまして、9月11日に第13回となる魚祭りを開催することができました。これも本当、最初に声をかけていただいたA-bizさんのおかげで魚祭りをやることができたので、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この中にマグロの解体ショーだとか、ここにもちよつとA-biz企画、魚屋さんとかお寿司屋さんからコラボレーションした鰹節けずり体験とか、結構小中学生に人気のけずり節体験とか、盛りだくさんいろいろなイベントがございます。おかげさまでこういうことをやっていたおかげで、熱海の魚市場における地の魚の値段が1キロ当たり70円上がりました。

1キロ当たり70円といっても漠然としてわからないかもしれませんが、熱海魚市場における年間の魚の出荷量が146トンで、そのうち30トンが熱海の地魚です。30トン掛ける70円、ほぼ200万円、熱海魚市場に売り上げが入ることになりました。これも本当に市民の皆様、そして観光協会の皆様、A-bizの皆様のおかげでここまでのイベントになりました。以上です。

【発言者4】

皆さん、こんにちは。伊東から参りました発言者4と申します。現在私は伊東の旅館にお勤めしてまして、伊東の観光協会の女性部会と、それから伊東市インバウンド推進協議委員会のメンバーになっております。今日はこの観点から伊東の女性部会の過去の活動と、それから今後私たちが取り組みたいインバウンドについてお話をさせていただきたい

と思います。よろしくお願いいたします。

今日男性の方、非常に多いんですけども、伊東の観光協会の女性部会、別に男性の方嫌よと言っているわけじゃないので、男性の方にも参加していただいて、いろんな御意見を伺ったりしています。

最初に取りかかったのが、ポケットタイプの小さなパンフレットなんですけれども、伊東市の中でもたくさん似たようなパンフレットがありまして、そうじゃなくて、もっと子供から大人まで癒されるような場所を見つけて、多くのお客様に紹介したいねということで、我々みんなでボランティアで現場に行きまして作製することになってでき上がったんですが、今日はここに発言者1さんが来ていらっしゃるんですけども、発言者1さんたち、車椅子でも行ける場所もこの中に紹介させていただきました。

次に、まちを歩いていましたら、非常に荷物を持ってお客様が重たそうに歩いていらっしゃるんですね。これじゃ自分が逆に観光客になったときに大変だなと思ひまして、まずは観光協会の駅前のオフィスにお願いして、無料で預かっていただくことをお願いしました。それで伊東の駅前のお店2店舗に協力していただきまして、そこでも無料で預かっていただくことを半年間ほどお願いしまして、非常にお客様から喜んでいただいております。

ただ、駅の構内にコインロッカーございますよね。そういうコインロッカーがあるので、JRの駅長さんを訪ねまして、まだまだコインロッカー、お客様足りないので増やしていただけないかという交渉をしました。とても快く引き受けてくれまして、JRさんそのものがやっているんじゃないかと、ほかの企業に委託しているので、そちらにお願いして、もっと大きなスーツケースが入るのをつくりましょうと、そのように御協力もいただきました。

それから次に、鎌倉の観光協会を訪ねまして意見交換会をさせていただきました。鎌倉に女性部会が行きましたところ、平日にもかかわらず、歩いていて前の人がつかえちゃうほど、すごいお客様だったんですね。このお客様を伊東に連れて帰りたいてそのように思いました。

今日私が熱海の駅に下りた途端に、数十年前とはガラッと変わって、熱海の駅前がものすごい賑わいなんですね。いや、これをまた伊東にこのお客様が来てくれないかしらと、そのように思ひまして、すばらしい熱海の発展に驚かされた次第でございます。

鎌倉から学ぶことがたくさんございました。それはまた後ほどにさせていただきます、じゃなぜ今後私たちがもっとインバウンドに力を入れたいかといいますと、2015年には訪

日のお客様が1,970万人です。2014年は1,300万人、これ600万人も増えちゃったわけですね。このお客様を放っておくわけにいかない。

大きなその理由の1つとしまして、お客様の旅行形態が変わりました。どのように変わったかと言いますと、今まではパックといいましてツアー、団体で移動していました。だけど、インターネット、スマートフォン、それとネット業者といいまして、外国人を専門に扱っているインターネット上でのエージェントさん、これも増えました。それと円安になりましたね。ということで非常に海外のお客様増えました。

その海外のお客様は旅行形態が団体から個人旅行になったがために、自分の行きたいところを自由に検索できます。今どこに行きたいかと言いますと地方に行きたいんです。今まではゴールデンルートといいまして、東京、千葉、大阪、京都、北海道とか、この辺が一番の人気だったんですね。ところが、個人旅行にシフトしましたところ、お客様は地方に行って、そこの文化に触れて、地方の人たちとお話したい、交流体験をしたい、そういう希望が多くなってきましたので、我々が頑張れる大きな要素になってきたわけです。

しかも、外国人旅行者が日本に行って使った旅行費用が2015年、3兆円だそうです。ですので、これを見逃すわけにいかないですね。

そんなわけで、何人かの海外のお客様に仕事柄インタビューしまして、どういうところに地方に魅力を感じていますかとお話を聞いたのを少し御紹介させていただきます。

まず、オランダから来ましたファミリーのお子様連れのお客様だったんですけども、「子供さんのゆかたがとてもかわいくて、もうこれを買って帰りたい」そういうふうにおっしゃっていました。それと温泉がすばらしい。ただ伊東のオレンジビーチに行きましたら、砂浜が黒かった。これは火山の影響ですから仕方がないんですけども、オランダは黄色なんだそうです。フランスは砂浜が真っ白ですね。そういうことを聞きました。

シンガポールからのお客様、「非常に伊東はクリーンなまちだ」と言われました。「でもシンガポールは世界で一番美しい、ごみも落ちてないまちじゃないですか」と言いましたら、「それはあなた、ごみを捨てるペナルティを取られるからですよ」と、そういうことを言われまして、ふんふん、なるほどなるほどということであらうな感じです。

最後に実は中国から来たお客様に、お子様連れだったんですね。

「どうして日本に」と聞きましたら、「自分の子供に日本人のマナーを学ばせたかった」、それを聞いたときに私はすごい衝撃受けちゃいまして、実は中国の旅行者に対して、ちょっとシングルマインドで物事を見ていました。ごみを落としたりとか、ちょっと大きな声

でロビーでお話ししたりとか、そのイメージが強かったものですから、そういう見方はいけないんだなって自分自身ですごく反省させられまして、マナーを学ぶどころか、逆に私たちはそういう方がいたら、知らないんだから教えてあげなきゃいけない、優しく教えてあげなきゃいけないんだなということを学ばせていただきました。

次に、だれでもできるおもてなし。海外の旅行者は何十時間もかけて日本に来てくださいます。それでさらにまた成田や羽田から伊豆方面に移動してくるわけですね。そういう方々がせっかく来てくれたので、やっぱり何か道に迷っていたり、困っていたりしたら、声をかけてくれたら、非常にありがたいなと思うし、おもてなしというのは、相手に感動を与えることだと思うんですね。ですからちょっとした、全然英語のお話しできなくても大丈夫ですし、手真似でできます。十分通じます。それを皆さんに、もしそういう方がいたら、勇気を出して声をかけていただいたら、スマイルで返ってきます。ぜひお願いしたいなと思っています。

今後のインバウンドについての大きな課題の中で、今伊東で若い方々がレンタル自転車とか、ショップをオープンしたり、一生懸命頑張っているんですけども、例えば二次交通としまして、レンタル自転車の場合にサイクル専用の道路がないんですね。伊豆はとても海岸線が美しいし、海あり、温泉もあるので、十分お客様を受け入れる体制がそろっているんですけども、アクティビティに対してはちょっと海外のお客様から自転車で歩きたいんだけど専用の道路がないよねと言われたときに、ちょっと返す言葉がなかったんですが、この辺のところをまた考えていただけたら非常にありがたいなと思います。

限られた時間なので、私言いたいこと十分に言えないんですけども、御清聴ありがとうございます。

【川勝知事】

熱海から、まずは最初のトップバッターで発言者3さん、青果市場がなくなって十数軒になってしまったと。ですから魚市場は絶対なくしてはいけない。14年間右下がりだと。平成2年には58軒だったのが30軒になったと。この14年間ずっと右下がりだと。よく右下がりでごここまで持ちこたえていると。そして地魚につきましてマップをおつくりになったと。これが1キロ当たり70円の売り上げに通じていると、きっとそうに違いありません。

ですから情報を消費者に届けるということがいかに大切かということではなかったかと思います。届け方はいろいろあると思いますけれども、この店にはこういうものがあるということ、売っていらっしゃるお魚屋さんとお魚屋さんとあなたのところが連携をしてやっていく。

そして年に5回ですか、お祭りをすると。これは気持ちを1つにするということと同時に、情報交換にもなりますし、盛り上げることにもなるということで、この試みはぜひ続けていただきたいというふうに思います。

よく稲作・漁労と畑作・牧畜という言い方をするんですよ。麦で炭水化物をとって、お肉でタンパク質をとる、これはヨーロッパとか、あるいは大陸なんかの、特に北側はそうですね、中国の北京あたりは。しかし日本の場合、ついこの間までお米で炭水化物をとって、お魚でタンパク質をとるという稲作・漁労と、これはもう1万年以上漁労をやり、今から3,000年、4,000年ほど前には稲作が始まってやってきたものなので、私は日本の食文化の遺伝子の中にこれは確実に入っていると。

魚種も一番世界で多いのが日本ですし、そしてお魚の食べ方も一番豊かなのが日本なので、これは絶やしてはならないので、特に沿岸にある熱海だとか伊東だとか、伊豆半島の町々はそういう使命を負っているんじゃないかというふうに思っております、あと何ができるかは分らないのですけれども、伊東あたりですと市場にすごい、要するにその日売れないというようなお魚でどんぶりをつくってやっておられますよね。これも1つのやり方です。

それから反対側の土肥だったと思いますけれども、あそこは農協と漁協さんが一緒になって、農協の市場に漁協が持っていくわけですね。そうすると買い物する人にとっては、農作物とお魚の両方買えますからね。また持ってきた人も、ついでに農作物を買って帰ることができるので、農協と漁協が一緒になるというやり方も伊豆半島でもありました。

それから商工会議所、あるいは商工会と農協だとか漁協が組むという方向も、実は環浜名湖で出てきています。ですから農協と漁協と商工会、それぞれ根拠になっている法律は違うんですけれども、消費者の観点から見れば、協力していただいて非常に便利なわけですね。

ですから青果市場を盛り返すつもりで、それを漁協の人がやったと。八百屋さんがそんなに少ないというのは非常にまずいので、ぜひそちらの方にまでもう一度魚市場における活躍をベースにして、1回潰れたものをもう1回立ち上げて見せてあげるところまでやってくださるとすごくうれしいですね。商工会の方のぜひ御協力も仰がれば良いというふうに思った次第であります。

それから発言者4さんはすごいですな。この年齢の方々のパワーというのを感じませ

んか。感じますね。私はほぼ余り変わらないんですけども、負けます。この人たちのパワーというのは、一人じゃなくて大体ネットワークができていますね。

鎌倉に見に行くと、これが大きかったと言うでしょう。ですから、実はインバウンドをするためには見に行かないといけないんですよ。伊豆半島の観光協会の悪いところは、こちらは宝物が埋もれていますから、来るのが当たり前だと思ってきたんですけども、これを改めるきっかけになっているんじゃないかと。

もう1つ、オランダの人に聞いたというわけでしょう。それから次はシンガポールの人に聞いた。中国人の人に聞いたと。聞くよりも見に行った方がいいですよ。

オランダというところは山がないですよ。全部埋め立てたんです。人間が大地をつくったんです。ですから世界をつくったのは神様なのかもしれないけれども、オランダをつくったのはオランダ人だと言っているわけです。だから平坦ですから、ですから自転車なんかすごいですよ。オランダ人がお風呂のことを言ったというでしょう。オランダ人というのは、御案内のようにペリーが下田に来るまで唯一中国人を除きましてヨーロッパではオランダ人だけです。じゃヨーロッパで最初に風呂に入るようになったのはだれかということオランダ人です。日本人は風呂大好きですから。

ですから長崎に来て、1年に1回ヨーロッパで何があるかということ報告にしに来る。そうすると日本ではどこに行っても風呂に入っているわけですよ。それで向こうはキリスト教ですから、体はいわば罪に侵されていると、魂は正常だということで、体のことに構わない。ですから日本人の清潔さに感動して、お城の中にバスタブをつくって行くんですよ。これは今から200年ほどぐらい前のことです。

それからお花もそうです。向こうでお花を商売にしているというのはなかったんです。それもオランダが日本から持っていきました。ですから実はヨーロッパの方が上だと思っているのは違ひまして、こちらの方が知らぬうちに向こうに輸出しているものもあります。

そうした中でオランダの人が温泉がいいというのは、本当にそのとおりだと思うんですよ。オランダは、平坦ですから、山も何もない。こちらは海あり山ありでしょう。そのかわり自転車道路があるんですよ。

シンガポールは、水がありませんから、水は天からのもらい水です。それでマレー半島から土管が引かれていまして、大陸から土管が引かれているから、それを止められたら生命に関わるというそういうところがあるんですが、リー・クアンユーという人は土作りから始めたんですよ。土をつくれれば植物が育つということでガーデンアイランドにしてやる

うというので、ですから全部人工的につくったんですね、きれいにするというので。そのきれいの模範はどこかという日本でしょう。

だから清潔というのは、日本人の何と申しますか、もう文化的遺伝子ですね。汚らわしいとか汚らしいとかというのを嫌がります。だから良いとか悪いとかというときにも、「あなたは悪いね」と言うのと、「君、汚いね」と言われるのとどっちがきついですか。「汚いね」というのがきついんですよ。

仮にけんかすると、けんかって汚いじゃないですか。けんかしたら、「水に流してきれいさっぱり仲良くしたら」と言うじゃないですか。日本の川はどこも皆きれいですから、だからその水がきれいということが日本人の清潔感を培ってござりまして、そして、それは山があり、緑がつくっているおかげですね。だからうちの清潔感はずごいんです。

そして中国の方のマナーをこちらの感覚で言うとだめで、行けば向こうでは当たり前なので、ですからこちらのディズニーランドと香港のディズニーランドを比べればいいのです。こちらのディズニーランドは、アメリカのディズニーランドよりも、もっとディズニーランドなんですって。つまり本物を抜いているわけですね。それはなぜかという、清潔でおもてなしで、相手のために一生懸命やりますから、ですからそういう意味で、そういうことがすぐわかるくらいに、こちらのおもてなしのあれと、礼儀作法と、汚いものを厭うというのがあるので、これを意識的にやればいい。

さて、そのときに何語でやるかというわけです。それで何か英語と言うじゃないですか。英語というのは使いにくいですよ。1つだけ「サンキュー」と「グッドバイ」と、あとはさっき発言者1さんがおっしゃっていましたが、「何かお手伝いできることがありますか」と、これは世界共通語で「キャンアイヘルプユー」、あなたを助けることができますか、「キャン・アイ・ヘルプ・ユー」4つです。「サンキュー・ベリー・マッチ」「グッド・モーニング」「グッド・アフタヌーン」「グッド・イブニング」「グッド・ナイト」、それと似たようなものですね、「キャンアイヘルプユー」と。それ言ったらあとは全部日本語でやればいい。

日本語の国際化が大事です。実際はかなりの人がローマ字で入力しています、子供たちも。ですからローマ字使っているんです。

向こうの人たちが例えば「おはよう」を覚えるというときに、ひらがなで「おはよう」と書くのは大変ですよ。だけど「ohayo」というふうに書いてあげれば、これが「おはよう」のことだとすぐわかるんですね。ですから日本人はローマ字もマスターしている

し、漢字もマスターしている。

ですから漢字というのは1つの文字に意味があります。意味をあらわす文字、表意文字といいますが、ローマ字の場合は音だけでしょう。表音文字という。この表意文字と表音文字の世界における代表が漢字とローマ字です。ハングルも表音文字ですけども、あれはだれもわからないですね。ほとんどの人がわからない、韓国以外の人。学んでもなかなか通じない。ローマ字は通じるんですよ。

だからローマ字を日本人はマスターしているので、それを上手に漢字で「伊東」と書くのも「i t o」と書けばいい。全部そろそろ、これが自然にでき上がっています。なぜかというともうローマ字で使っているから。そういう意味で日本語の国際化を図る。日本に懂れているから来るんです、人は。だから日本語を国際化にするとすごい便利でしょう。

ですから日本語を広めるために、ぜひ発言者4さんにはオランダとシンガポールと、それから中国に行ってください、つまり相手を知ると。相手を知ることが大事で、その相手に応じた形でこちらがおもてなしをして差し上げればいいと。こちらのルールに従えと言うのはなかなかきついで、相手のルールを知って、それに合わせてあげればいいというそういうスタンスをキャップにして、あちこちまずは自分でアウトバウンで出かけて行って、一番ターゲットにしているところ、そこからお客さんを引き入れてくる。

ちなみに、アゼルバイジャンを御存じですか。バクーという油田があるところ。そのアゼルバイジャンという国が伊東市と兄弟関係を結んでいるでしょう。すごいことですよ。

日本の庭園が余りきれいで、向こうは要するに乾燥地帯で。こちらは水と緑でしょう。彼らにとっては天国です。ここは天国なんです。向こうは無茶苦茶お金があるわけです。だからもう幾ら来ても、アゼルバイジャン全部お招きするといっても、ただし相手がどういう人たちかわからなければ、例えばハラール食だと。そうすると和食でいいということです。

和食というのはハラールそのままですよ。ただしお酒飲んじゃいけないので、申しわけないけど。とにかくハラール食というのは、和食が典型的にすれば、アルコールさえ入らなければ和食はそのままイスラム食に全部通じますよ。イスラムの人口の方がキリスト教より多いんですから、そこには無茶苦茶な大金持ちもいます。

伊豆半島はこれからは攻めの観光で、一旦はアウトバウンで行って、インバウンに。まずはインバウン、インバウンと言うんじゃないで、アウトバウンをして、敵を知ってというか、相手をよく理解した上でおもてなしをやると、一気に私は世界の半島で

すから、そういう魅力で人が来て困るといふくらいの美しい伊豆半島がすごい悲鳴を上げることになるんじゃないかといふふうに思っている次第でございます。以上であります。

【発言者 5】

こんにちは。発言者 5 と申します、よろしくお願いします。

私は熱海でまちづくりを仕事にしてやっています、今日は知事にお話ということで、最終的にお話ししたいことはまちづくりを民間でやってくる中で、いろいろ課題にぶち当たったことも多くて、法律とか条例、そういうところでよりこのまちの課題を解決するために、そういう現場でやっている中で、ルールを変えていかないといけないんじゃないかなと現場でやっていると思う部分があって、それを今後一緒に検討していただけたらありがたいなということをお伝えしたいと思います。後で言い忘れそうなので先に言いました。

私自身、自己紹介をさせていただきますと、僕はこの熱海で 37 年前に生まれました。二十歳のころまで、19 歳まで熱海に住んでいて、大学で東京に 1 年間通ったりしながら、この熱海で生まれてきたんですけど、すごく印象に残っているのが、2003 年のころ、東京にいたので熱海に久しぶりに帰ってきたときに、このまちの光景を見たときに、まちが廃墟になっているという姿でした。当時旅館とかホテルの大きなところが潰れて、うちも実家が両親は企業の保養所で働いていました。その保養所も 99 年には閉鎖になりまして、両親も熱海を出ていくことになりました。

そういう状況を見ていて、何でこうなってしまったのかなということと、いつか熱海に帰ってきて何とかしたいなということ勝手に思って、そういった思いが高じて、9 年前 28 歳のときに私自身はこの熱海のまちに帰ってきて、まちづくりに取り組もうということやってきています。

この熱海を離れていた時期に、27 カ国、世界を貧乏旅行で一人で旅をしてくる中で、改めて思ったのが、このまち、この熱海って何て豊かなまちなのだろうということをととても思いました。温泉や自然はもちろん、昭和のまま時が止まったようなそういう風情を持っているまち並みだったり、チェーン店がほとんどなくて、何十年、100 年以上続いているお店がたくさんあってこういうまち並みってものすごく財産だなと思ったんですね。

でも僕は 10 年ぐらい前に熱海にそろそろ帰ろうかなと思った直接のきっかけは、実はそんな熱海で、旅館・ホテルに対して、マンションが多く建っていったころなんですね。マンションを建てるのは、多くの方、いろんな方が住んでくださるのでいいんですけど、で

も何か風景として東京と変わらない風景になっていくというのが、すごく自分が帰りたいまちが、いつかこれが全部まち中のお店も含めて、全部変わって行ってしまって、東京のようなまち並みになってしまったら、自分の帰る場所がなくなるなというふうに思っていたんです。

だからこそそういうまち並みを残しつつ、でもだんだん衰退していってしまうまちをどう再生していったらいいんだろうということをずっと考えてやってきました。

それで今、私たちは会社を5年前につくりまして、やっているのは空き店舗とか空き家ですね、ずっと放置されてきた空き店舗とか空き家を再生して、そこで実際に店舗、カフェだったりとか宿泊施設をやってきたり、シェアオフィスという形で働く場をつくったりとかということをやっています。

なぜ空き店舗でやってきたかという、5年前、2011年に熱海のまち中で僕らはずっとまち歩きプログラムとかをやっていたんですね。まちを紹介して歩くのがすごくおもしろいけれども、歩けば歩くだけ空き店舗がいっぱいあるんですよ。

それがもうすごく気になって気になってしょうがなくなってきた、実際にそのころ調べてみたら、熱海銀座通り周辺の200m四方のエリアに140室の空き室があった。たった200m四方で大体5分くらいで歩けるところで、そこに140以上も空き室がある。そんなに膨大なのかと。調べれば、熱海全体でいったら1万という単位の空き室があるということで、膨大な数になると思いました。

これはまち中の空き家や空き店舗だけじゃなくて、多分ここにいらっしゃる方々も、リゾートマンションなんかも非常に空き室が増えて、管理の対応とかも含めて、マンションがゴーストマンション化していくみたいなことを身近で感じていらっしゃる方もいらっしゃるんじゃないかと思っているんですけど、そういうものがたくさんある、それをどう再生すればいいかというようなことを考える中でずっとやってきました。

いろんな事業、プロジェクトをやってきたんですけど、昨年9月に銀座通りでゲストハウス MARUYA という宿泊施設を立ち上げました。これも10年間空き店舗だったところですね。10年間放置されてきた100坪ぐらいあるところですけど、そこを再生して宿泊施設、ゲストハウスという余り聞き慣れないものかもしれませんが、簡単に言うと、普通の旅館とかホテルよりも非常に交流が多い宿じゃないかなと思っています。皆さん素泊まりして、夜はまちに飲み歩いて、まち中で飲んで帰ってきて、温泉も近くの温泉に入りに行くということをしながらかやっている、そういう人たちが泊まりに来てくれて

います。

そういう人たちが熱海のまち中を飲んで歩いて回って、そこから熱海を好きになって、頻繁に来るようになってくれたり、外国人の方も 20%ぐらい来るんですけども、そういう中で実際すごくうれしいことは、熱海に移り住んでくれる人も出始めているんですね。若い人たちが熱海に移り住んで、仕事も熱海でしながら住むということが起きてきています。

私たちがやろうとしていることは、そういうふう若い、特に 20 代、30 代の人たちが、熱海では働く場所はあるんですけど、旅館とかホテルとかも人手不足だと思うので、住む場所がなかったり、逆に働く場所もサービス業しかないのも、そういうところしかなかったりするので、そういう中でいかに新しい雇用を生み出して、住む場所もつくっていくかということを考えています。

みんな熱海のまち中に住みたいと、まち中をあえて選んで住んでいますけれども、何でもまち中が空き店舗とか空き家というのが増えてきたかというふうに考えると、1つは観光客が昔より減ったということがあると思いますけれども、もう1つは、人がまち中に住まなくなったからだというふうに思っています。

今住むには、どうしてもそのままじゃどうしようもなく、熱海のまち中だと、お風呂がないとか、トイレが共同だとかという不都合があったりすると思うので、そういうところを変えていきながら、まち中に移り住んで働けるような場所をつくっていききたいなというふうに思っています。

私たち、この取り組みをまちづくりの世界って、普通の多分商売をやっている方からすると変なところで、全国各地まちづくりって何か補助金とか税金で成り立っているなというのを感じてきました。

でもそれだと多分これからの時代やっていけないんじゃないかと思っていて、僕らが今やっているのは空き店舗再生、カフェをつくったり、ゲストハウスをつくったりとか、やってきたことというのは、一切そういう税金、補助金というのは要らないというふうに考えてやってきました。

具体的な例をお話しした方がわかりやすいと思うのでお話しすると、ゲストハウス MARUYA というのをやるには、実際にお金として最初の段階で 4,500 万円ぐらいのお金が必要だったんですけども、それは銀行に融資を 3,500 万円ぐらいしていただいて、あと 1,000 万弱、このまちの人たちが出資をしてくださって、うちの会社に出資をしてくださってで

き上がりました。

中には、同じ宿泊施設に旅館さんもうちに出資していただいたりしています。僕らそういうふうに最初お金もないし、模範もないしということなんですけど、まちの皆さんがそういうふうに支えてくださって、新しいことをやることができやっています。

そういうふうに、何を言いたかったかという、これからのまちづくりは民間がやらなきゃいけないし、民間主導じゃないかなというふうに思っています。民間のお金でやるべきだし、最後にお話ししたいことが、行政が後押ししていくということがとても大事じゃないかと思っています。

後押しするというのは、お金を出すということではなくて、ゲストハウスを立ち上げようとしても、本当にいろいろ大変でした。熱海のまち中は古い建物が多い、50年、60年たっている建物が多いので、今の状態で言うと適法ではない、法律的に言うと問題のある建物が多かったりとか、あとは古い建物をほかの用途に変えていくという段階で、非常にハードルが高かったりするものが多いということで、実際に適法ではないので、ある人が物件を買って、そこを何とかしたいと思ったけれども、銀行のローンが下りなかったとかというケースもありました。

そういうところを、安全性とかはもちろん大事にしたとしても、まちの課題を解決して、新しい事業を若い人たちがやっていったりするところをバックアップしていくために、どう法律的な部分をクリアしていくのかということを経済に考える時期に来ているんじゃないかなというふうに思っています。

例えば民泊みたいな話にしても、もちろん旅館さんとかホテル、うちも宿泊業の許可を取ってやっていますけれども、そういうところがたくさんあるまちですけれども、でもこれだけの空き家というのがある中で、どうそういうものとも共存しながらやっていくのかということをちゃんと考えていかなきゃいけないなと思っています。

そういう中で、最後に今、熱海市が市として ATAMI2030 会議という私たちがやってきたまち中の物件を再生して使っていくというそういうことを通してまちを変えていくという熱海リノベーションまちづくりと呼んでいるんですけども、その ATAMI2030 会議というのは全体の構想、どうやってやっていくのかという政策、そこをつくっていくための場を市が運営しているんですけども、その場には民間の方々もだれでも参加できて、大体今 100 人ぐらいの方が参加していただいて、そこに行政の方もいろんな部署の方が参加していただいて、そういう場にぜひ県の方々も、いろんな部署の方々も参加していただきな

がら、民間でこれからやろうとしている方々と同じ目線で、どうしたら、今日知事とお話しされている中でも、できない理由じゃなくて、どうしたらできるかということを常々皆さん職員の方々にもおっしゃっているというお話をされていましたが、そういうことを実際に現場に近いところで、一緒にみんなが現場を見ながら議論をしていける場を持たせていただけるとありがたいなということを思いました。以上です。

【発言者6】

こんにちは。最後になりました、私、あたま子育てコミュニティウォーミーの発言者6と申します。よろしく願いいたします。

私たちの団体は、今年の9月より熱海市立図書館で会話のできる児童室というところで、ゼロ歳から未就学児のお子さんと保護者の方を対象とした「親子でちょこっと英会話」などを主催しています。

子育て中のママさんボランティアがこの4月に団体として活動を始めました。「熱海で子育てをしよう」をスローガンに、子育て中の親子をさまざまな形で応援できたらいいなと考えております。

このウォーミーという名前なんですけれども、この名前は熱海の温泉で癒されたいママの気持ち、あったまろうから生まれました。きっかけは、県外からお嫁に来た、ともに3歳の子供を持つ子育て中の2人のママが、子育てをしていく中で、熱海は自然がたくさんあって、首都圏からも近いし、何て環境のいいところだろうと思っていました。ここで子育てをしないなんてもったいないなって、いつも2人で話していました。

ところが、子育てをしていく中で、もう少しこうだったらなと思うことがだんだん増えてきました。熱海の人口減少も例外ではなく、県内の消滅可能性都市の上位であるということを知りまして、とても驚きました。

熱海は観光のイメージがとても強いんですけれども、子供を育てようと思ったときに、今の熱海ではちょっと魅力が少ないかなというのを感じています。子育てがしやすいまちとして、熱海で子育てを切り口に考えると、また違った楽しいワクワクしたものができるんじゃないかなと考えています。

ただでさえ子育ては孤独に陥りがちで、そういったいろんなサポートが熱海はたくさんあるんですけれども、情報が行き渡っていなかったり、実際の現場の中にそのニーズが合っていなかったりとか、そういうこともあったりします。

そこで、子育て中のママさんの声を拾って、行政の方だったりとか、そういった子育て

がしやすい環境をつくりたいなど。初めて子育てをするママはもちろんなんですけれども、これからも子育てを熱海でしたいなと思ってもらえるような場所にしたいと思ったのがきっかけです。

また、年代を超えたママとか、パパ同士の交流や、地域のつながりを持つことで、みんなが子育てができる環境をつくりたい、子育ては楽しい、母親、父親になってよかったと思えるような地域社会を目指して奮闘していきたいと思っております。

今後の活動内容なんですけれども、1つ目は居場所づくり、子育て中のママはもちろん、年代を超えた世代が集まれるおしゃべりスペース、今ふれあいサロンとかあるんですけれども、そういうところは今4歳ぐらいまでの子供を持つ親子しか集まれないんですけれども、もっと世代の幅の広い方が集まれるようなスペースができたらいいなというのを思っています。

あと子育てサークルのサポート、これは今だんだんサークルのメンバーというのがどんどん減ってしまっていて、少子化もあるんですけれども、多分働くお母さんが増えたりですとか、そういった状況でだんだんサークル自体の存続が今危うくなっています。

ですので、今までのサークルのあり方もちょっと考えつつ、サポートもしながら、だけどサークルというのは必要だと思うので、こういった形で継続していけばいいかなというところも考えながら応援していきたいなと思っています。

ママ向け、親子向けのイベントの企画であったりとかも、地域の事業所とか、関連機関と連携して発信できたらいいなと思っています。

2つ目はママの就労です。子育てを優先しながらも、社会と関わり続けられる環境、知識や経験を持ったママの活躍の場の提案など、働くママの応援、子供の保育環境の充実を目指したいと考えています。パパの力も借りながら、女性が輝くことができれば、熱海の未来は素晴らしいものになると思います。

ここで、県の方をお願いなんですけれども、熱海というどうしても観光というのがすごく強いんですけれども、熱海でも子育てを応援する、こういったママさん団体があるということを広めてほしいです。

もう1つは、子育てはお金がとてもかかるので、とても子供を産んで育てられないという若者たちが子育てをあきらめないためにも、仕事と子育てを両立させようとしているママのために、保育園の受け入れ枠の拡大であったり、幼稚園の延長保育、あと事業所内の託児所の設置の援助などをお願いしたいと思っています。またその利用者の保育料の負担

の軽減であったり、事業所側の託児の負担の補助もお願いしたいと思っています。

熱海は第三次産業が主体になっていますので、例えば週2、3日ぐらい、短時間でもいいので働きたいというママが結構いるんですね。そういったママでも少し預けて働けるという環境がもう少し整備されると、熱海の産業もさらに活性化するのではないかなと思っています。

また、市の方にもお願いがありまして、どうしても子育てというと1つの部署、今子育て支援室とかでお話をいろいろ伺わせてもらったりするんですけど、部署ごとの縦割りでなくて、総合的な次の世代の子育て対策として、1つのプロジェクトみたいな感じで立ち上げていただいて、関連部署が連携して対策を進めてほしいなとすごく思います。

例えば、先ほどちょっと住居のことのお話があったんですけども、子育てをしようと思ったときに、熱海で住むと、やっぱりどうしても家賃が高かったりとか、そうすると住居の問題で違う課に行かなきゃいけなかったりとか、子育ての健康だったら健康づくり室に行かなきゃいけなかったりとか、いろいろなところに聞きに回らなくちゃいけないので、何か1つの対策をしてもらえるようなチームであったりとか、そういうのがあるといいなとすごく今思っています。

活動を始めたばかりの私たちなんですけれども、地域の皆さんや、あと近隣のママさん団体も元気なママさんたちがいますので、そういった方たちと連携しながら、1つ1つ子育て中のママ目線だからこそ見えることを、あとは子供の未来のために何か発信できたらいいなというふうに今思っています。ありがとうございました。

【川勝知事】

最後はお2人、熱海の若手男女協働でしっかりと聞かせてくださいますありがとうございます。発言者5さん、平成21年、私が知事になったころから、温泉玉手箱を主導させているということで、オンたまですか、今は会社を立ち上げたということで、その活動を見てきたんですけども、すごいなということであります。

20代で27カ国見てきて、そして熱海で育ったアイデンティティというか、故郷を思う気持ちが非常に強くて、そして世界を見てきた目で自分の愛する熱海をできるところから変えてみようというところで始められたわけではありますが、規制はあるにしても、よくここまでやるなというのが正直な感想です。

いわゆるカフェは言うまでもありませんけれども、シェアオフィスとか、宿泊所ですね。外国人もお越しになって楽しまれているんですね。お金かけないで、楽しめるようなスペ

ースづくりというのがあって、一種の芸術的な感性というのが生きていうか、あるいはそういう芸術家の意見を入れているというか、あるいは芸術家が住みたくなるので、芸術家風にちゃんと家を改造して、自分でやっている、ですからそういう需要を掘り起こされているというところもあります。

皆さん、世界で最も行きたいところの7つの代表に直島というところがあるのは御存じですか。これは岡山から20分ぐらいポンポン蒸気で行ったところですがけれども、実は香川県で、いわゆる宇高連絡船で香川の高松から1時間ぐらいかかる。岡山の宇野からは20分ぐらいかかる場所です。そこは3,000人ぐらいしかいないんですよ。ほとんど漁師です。どんどん出ていっている。中学までしかないんですよ。高校以上がないから、高校は香川県とか岡山県に皆かわるわけですね。どんどん減っていった。

それで町長さんが芸術の島にするというので、空き家を芸術家に貸したわけです。それからホテルも、安藤忠雄という人に頼んで、入ったらホテルなんですけれども、何か美術館なんです。それでもう皆びっくりして、周りの景色がきれいだから、世界の7大魅力の1つになっちゃったんですね。

それと比べれば熱海なんて地の利はすごいです。歴史もすごし、多様性もすごし、ですからこれを応援しないといけないんじゃないかと思えます。

ただ、やっぱりまち中でいろんな建物があって、100平米以上、30坪以上のところは用途変更の場合、建築確認を取らないといけない。さまざまな規制があって、これをどうクリアするかというのは知恵の出どころですね。特区でもやりますかね。

熱海特区みたいなものにして、いろんな試みを実験的にやることのできるような、実績に基づいて提案をして、ほかのどこかのまちにも役に立つようなモデルづくりとしてできればいいなと思えます。

それから発言者6さんですね。もっともですね、おっしゃっていること。ですから実はママとねとかママラッチとか、いっぱい子育てをしているお母様方のグループが今でき上がっております。

これは行政主導じゃなくて、大体お母さん同士の、たまたま知り合ったとかいうふうなことがベースになって、そしてお互い助け合うというところからですよ。

まずは発言者6さんを御覧になってわかりますように、レベル高いんですよ。ですからいろんなことができるんですね。ところがお子様が生まると、そうするとかわいいですから、そしてやっぱりまだ手が離せない、目も離せないということで、子供にかかり

つきりになるでしょう。

ところが、それはそれとしていいんですけれども、その結果孤独になるというとおかしいですけど、いろんな不安材料が出てきます。それを取り除くための情報交換がこういうウォーミーという、これも私たち熱海にいるから温泉であったまるという感じがでるのでウォーミーにしようということになったというふうなお話でしたけれども、この地域のお母さんとして一緒に助け合いましょうということなので、それはニーズが皆違います。これをどうしていったらいいか。

先ほど発言者2さんと発言者4さんが、お子様を育てる年齢をもう終えて、今そういうお母様方を助ける、またお子さんを直接助けるような年代になっているんですが、4歳以下の方だけでなく、もっと延ばしてほしいと。私はお母さん経験者というか、2人目の子供のお母さんと、初産のお母さんとは、情報量が違いますからね。いろんなお母様方というか、女性たちの情報交換と、子育てと、できればその人の能力が生かさせるような仕事が両立できるようにというのは、切実な願いだというふうに思います。

実は熱海市いろいろやっていたらっしゃると思いますけれども、県でも6,000人の職員がいます。平成元年ぐらいから、40以下になりますと、女性職員の数が非常に目立ちます。今や半分くらい受けてきますから、学歴は変わりませんから、仕事は事務の仕事ですから変わらないでしょう。

ですから私は県庁の中に保育所をつくると言ったわけです。偉い人たちに反対されましたよ。それで5年かかったんです。県庁に来られると、真ん中に立派な古風な本館がありまして、東館にいっぱい耐震性の筋交いの入っている建物があります。これ東館というんです。私そこにいるんですが、西館というのがあります。正面向かって左側、そこを上がったところに預かり所をつくったんですよ。

本当に時間かかりました。最初は抵抗されていたんですが、今は非常に、だれが来ても構わないと。いろいろ工夫して、今子供がそこにいる。

そうするとお母さんが県庁の職員の場合には、お昼時間だとか、空いた時間に来るでしょう。お父さんも職場結婚の場合は来ますよね。それを最優先することという、いわゆるイクボスというらしいです、最近は。育児をする人たちを励ますというふうにする。これは男の感性ではなかなかわかりにくいので、女性の言うことをよく聞いて、それに応ずる形でやる以外に方法はないんじゃないかというふうに思うんですね。

まずできるところからやっていくということが大事で、1つ1つ、例えば2時間くらい

働きたいと。すぐ子供のところに帰りたいと。それから子供が大きくなれば、働く時間が長くなりますので、フレキシブルに働く時間をして差し上げるという、そういう文化が育つと本当にいいなというふうに思います。

また日本というか、静岡県も子供を育てにくい状況になっていますので、いろんな支援をしなくちゃいけない。

それから離婚が増えているのは御存じですか。平和な時代は離婚が増えるんですね。不思議です。それは女性がたくましくなるからじゃないですか。

江戸時代も、いわゆる三下り半というのがあったのは御存じですか。夫なにかしは妻なにかしを離縁するものであり、これから一切構わないということで、主人の名前があつて、奥さんの名前が書いてあるわけです。それを何かものすごく封建的だと思うでしょう。

調べた人がいるんですよ。そうすると、これは単なる書式でしかない。それを持っていくと、離縁されたので、もう前の旦那と関係なしに再婚できるということで、再婚許可証だと言われているんですよ。つまり女性が自立してきた。そうすると子供の数が2, 3人になるんですよ。江戸時代の初めは子供が7, 8人おったんです。

ところが元禄の主人の仇討ちまでしてちゃんと立派なことをしたにもかかわらず、全員切腹でしょう。暴力沙汰はだめだといった後何が起こるかということ、心中が起こるんです。心中はどっちがリードしているか。女なんですね。もうこの世ではあなたと一緒に結ばれないから、一緒に死にましよう。これはあんまりいいことではありませんが、女性がリードして、身分社会ですから、その叶わぬ恋を天国でという、それが実は離婚がすごく増えていくんですね。

そうすると離婚すると、大体お子さんと母子家庭になるとか父子家庭になる。母子家庭の所得は低いところでは年間150万ですよ。200万とかその程度で、どうして子供を育てられるのでしょうか。

父子家庭についてもやっぱり厳しいです。全体的に所得が低いんですよ。だからそれは非常に気の毒なので、離婚は当たり前だと、バツイチは当たり前だと、そこまで奨励するわけじゃないですけども、現実を受け入れて、それで1人で育てるということの大変さを社会全体で育ててあげましようというふうにすればいいと。

だから社会全体が親になるというのが社会総掛かり、地域ぐるみで、熱海の人たちは地域の人たちが全部お父さんがわり、お母さんがわりになって育ててくれるというふうにするれば、お母さんは一生懸命働けるので、所得も増えてくるし、そういうふうに母子家庭や

父子家庭、いわゆる一人親家庭を思い切り大事にすると。離婚を増やせということじゃありません。しかし離婚はしようがなく起こっています。

それは母子家庭の厳しさというのは皆さんよく御存じで、そして仕事をやめざるを得ない女性たちですね。しかし能力があるので、孤独に悩んでいると。その能力をさらに引き出すために、みんなで子育てできる方向に持っていくと、彼女たちも2人目、3人目ということができる可能性もありますし、お金もかからなくなるし、手間もかからなくなると。

みんなの子供として、子供もいろんな人の目がそこに行き届くというふうになると思いますので、子育ての問題は今発言者6さんが言われただけでなく、静岡県全体の問題として受け止めて、女性たちが本当にここで育ててよかったと、ウォーミーだと、ウォームだというそういう地域にしていきたいものだと思います。ありがとうございました。

【傍聴者1】

私は伊豆山に住んでおります傍聴者1と申します。どうぞよろしく申し上げます。

1つ、観光の多様化ということで質問させていただきたいと思います。まず人生を豊かにするのは、その主軸の1つは文化芸術に触れることだと思います。静岡県は特にグランシップでSPACが世界に発信して、高い評価を得ていると思います。

また中学生対象の音楽会、あるいは子供たち対象のシェイクスピアなどもやっていただき、本当にありがたいと思います。熱海市内の中学校は、音楽会に何回も行っているというのがあります。

坪内逍遙はシェイクスピアを全部訳されました。また終の棲家として双柿舎で、また海蔵寺で今も眠っていらっしゃいます。私たち市民はそういうところをしっかりと守って、文化を構築しているつもりであります。

ですからグランシップのそこで演劇をなさっているときに、ぜひ熱海にもこういうシェイクスピアについてやっているんだよという感じで、横つながりで観光の1つとして宣伝していただければ、地方創生になって、全体が潤うんじゃないかなという感じで、これも新しい観光の多様化ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

【川勝知事】

ご立派な意見で、言うことはありません。今、文化オリンピックと申しますか、カルチュラルオリンピックというのがあります、これロンドンでやったんですね。ロンド

ンでのオリンピックがあったその翌年の方が観光客が多かった。

それはどうしてかということ、オリンピックの前から全イングランド、全イギリス島で、さまざまな地域のさまざまな文化的な活動をやったものだから、あれは見てないと、これを次は見に行こうということで、翌年に来られたということを知っておりましたので、それを国の方に御提案申し上げましたら、ぜひそういう、英語でカルチュラルオリンピヤードというそうです。文化オリンピックですね。それをやろうということで、私どもは今それを募集しているところです。

演劇集団SPACは非常にレベルが高くて、フランスのルモンド紙で「演劇の都静岡から来たSPAC」というふうで紹介されております。

ですからこちらで坪内逍遙先生は3回ぐらい全部翻訳されているんですが、最初は歌舞伎調だったみたいです、翻訳調がね。

いろいろとおもしろいことができるんですね。本当にこの国の文化は高いと思います。シェイクスピアなんかも明治時代に全部訳しているんですからね。何というレベルの高い文化だと思うんですけれども。そういうわけで熱海というのがそういう場の力を持っているんですね。これ皆さん共有の知識にしたらどうでしょうか。ありがとうございました。

【傍聴者2】

今日は川勝知事をお迎えしましてこういう機会があったのでまいりました。私も十数年前に東京からここへ来たんですけれども、それは温泉があるということで来たんです。

実は熱海の駅をおりて、ずっと商店街の方に向かうと左側の方に昔旅館があったんですけれども、そこの信号のところで、熱海の海、初島とかがきれいに見えるんですよ。それからちょっと先へ行くと今度は鉄板で全部塞がれて、それからずっと商店街を歩きまして、そこのところも同じように鉄板で塞いであるわけです。

要は安全のためだとかおっしゃるんですけれども、せっかくきれいな熱海の風景を殺しちゃっているんですよ。そこを歩くとシャッター通りを歩くようで、少なくともそこから海が見える、そういうようなことをぜひやってほしいんです。

【斉藤熱海市長】

今の御指摘は私もこの仕事をさせていただいて常々感じているところもございます。そして要するに閉鎖された旅館の外観のお話だと思います。それで行政の方でなかなかこうせい、ああせいということはなかなか難しいわけなんですけれども、例えばまた別のところで、外観がかなり厳しい状況になって、また道路に物が落ちそうになりそうな案

件があって、それは行政の方からお話をさせていただいて、今、解体をしているところもあります。

その外観を直すというのがなかなか難しいですけれども、我々の方からそういった働きかけを行っているところもありますので、御理解いただきたいと思います。

また行政ができる分野としては、2年前ですけれども、お宮緑地、あそこをきれいなジャカランダの遊歩道にいたしました。それによってあそこの価値が上がる。あの海岸線の価値が上がることによって、今止まっている旅館、かつての旅館・ホテルがまた再開する、私はきっかけになると思っておりますので、御理解をいただきたいと思います。

【川勝知事】

いろいろとあると思いますが、一生懸命されていると思います。隣の芝生がきれいに見えたり、自分のところには厳しい目があるかもしれませんが、例えばこの起雲閣それ自体も年間10万人以上来ているんです。1月1万人以上で、ちゃんと赤字を解消して、黒字をして、これは恐らく議員先生と市長さん、また市民の協働作業だと思うんですよ。やればできる。熱海駅も今、改修されているでしょう。この秋にはでき上がりますね。

そして景観については、今ジャカランダとおっしゃったでしょう。熱海は梅と桜、これをジャカランダ、いやブーゲンビリアだということで、1つじゃない、2つじゃない、3つ4つですよということをなさっておられて、景観に決して鈍感であるのではない。景観は言葉のないおもてなしです。

ですから景観がきれいだというのは、言葉を超えて、宗教を超えて相手に感動を生むので、そのことについて10年前からお越しになっている傍聴者2さんがおっしゃったので、こういう問題意識は熱海の共有されている問題意識だろうということ。

私は熱海などはよくなさっておられる、35市町の中ではABCで言うとAクラスに入っていると。確実によくなってきましたよ。

ただ順番があると思います。それからやっぱり相手様の事情もあるので、なかなかこれやれというふうに命令する時代ではありませんので、ぜひ市民の方々のそういう声は当事者に聞こえるようにみんなでやると話が早く終わるんじゃないかと、解決できるんじゃないかというふうに思いますので、ぜひ次来たときは、あのとき自分が言ったのがきっかけになったということで、何かそういう感想が聞けるのを楽しみにしたいと思います。